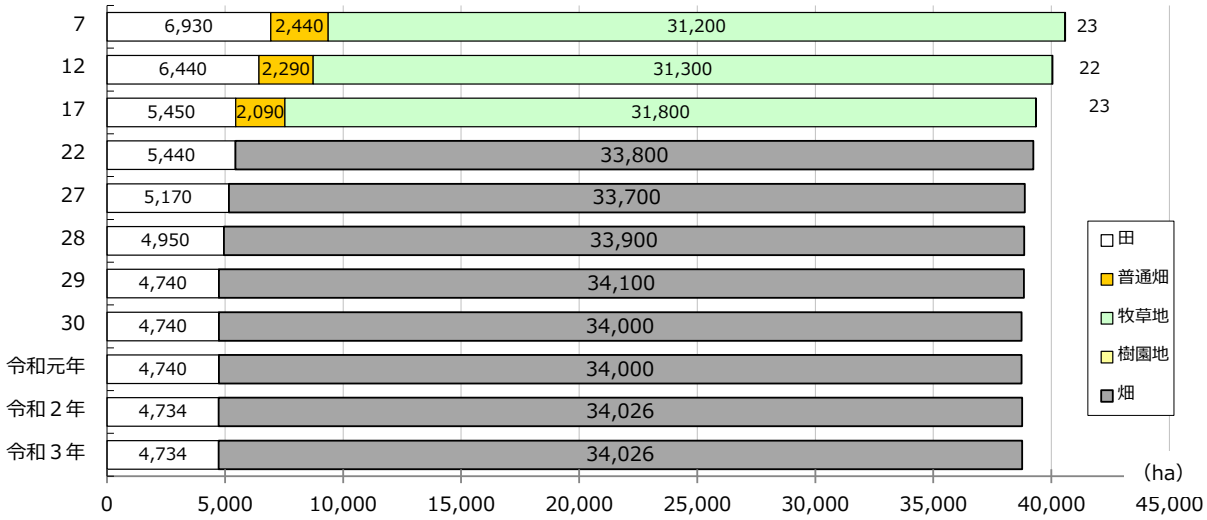
２．農業構造と経営

（１）耕地面積

日高管内における令和３年の耕地面積は、約38,800haと平成７年以降、年々減少傾向にある。
なお、種類別に見ると、田が4,734ha、畑が34,026haとなっており、畑が全体の８割以上を占めている。
また一方で、１戸当たりの耕地面積は農家戸数の減少等により年々増加しており、令和２年は24.5haとなっている。

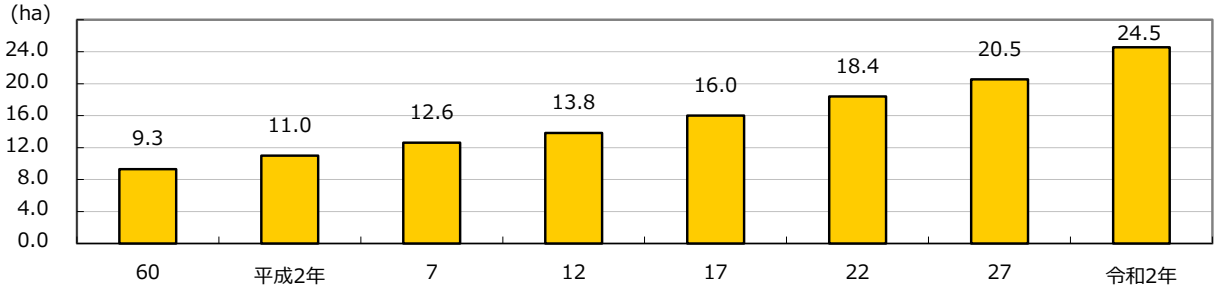
＜耕地面積の推移＞



〔資料：北海道農林水産統計年報（総合編）〕

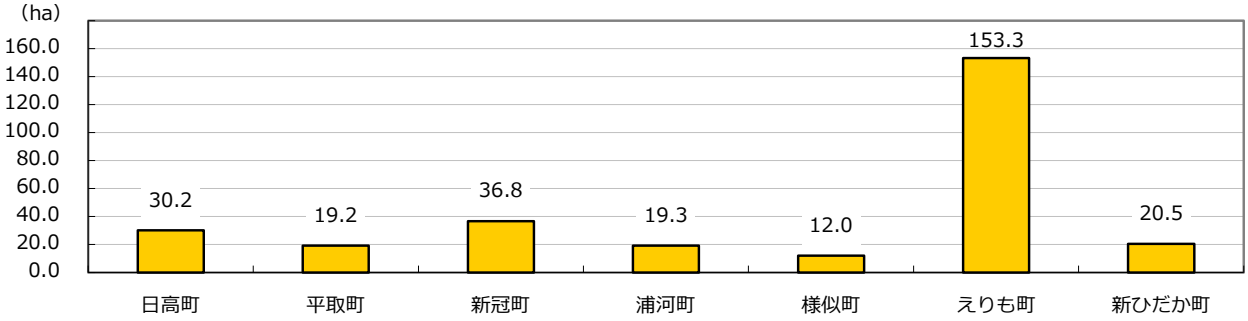
注：平成22年以降の「畑」面積には、「普通畑」「牧草地」「樹園地」を含む

＜日高振興局管内 １戸当たり耕地面積の推移＞



注：「北海道農林水産統計年報（総合編）」「2020農林業センサス」の耕地面積及び総農家数を基に算出。

＜町別 １戸当たり耕地面積（令和2年）＞

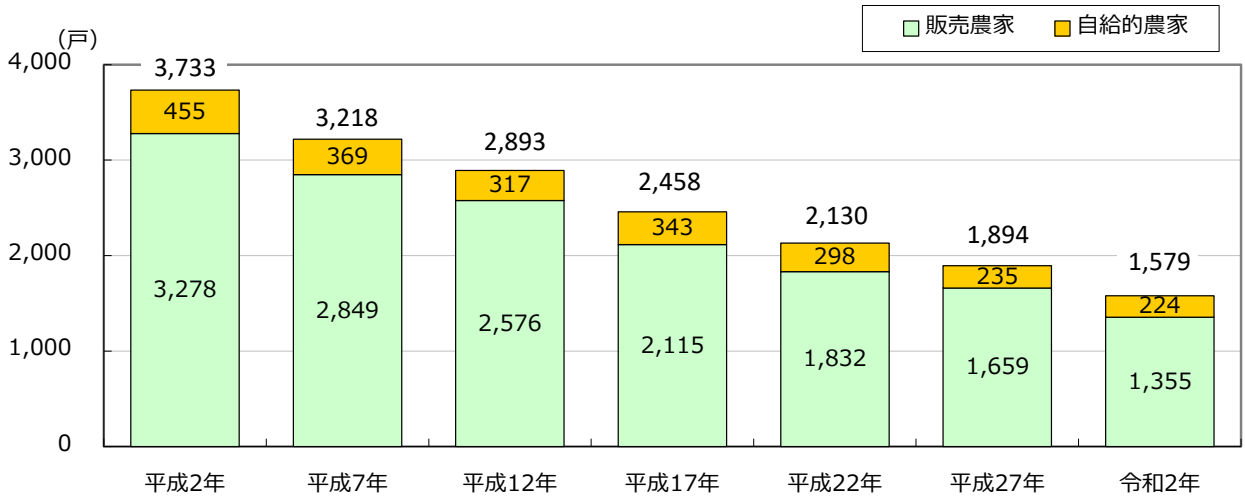


注：「北海道農林水産統計年報（総合編）」の耕地面積、「農林業経営体調査果報告書（2020年農林業センサス）」の農業経営体数を基に算出。

（２）農家戸数

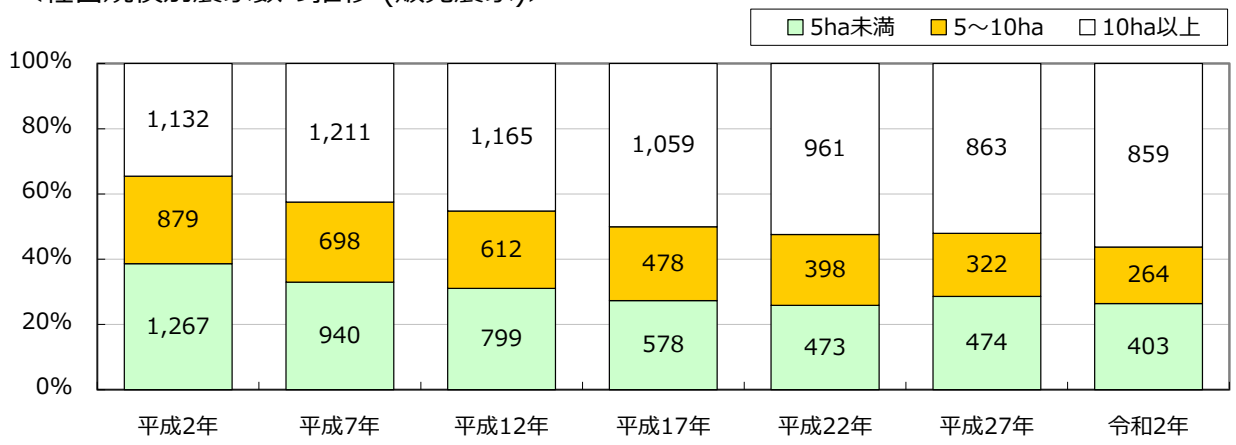
日高管内の販売農家数は令和２年現在で1,355戸と平成27年より304戸減少している。

＜　総農家数の推移　＞



〔資料：農林業経営体調査結果報告（2020年農林業センサス）〕

＜経営規模別農家数の推移 (販売農家)＞



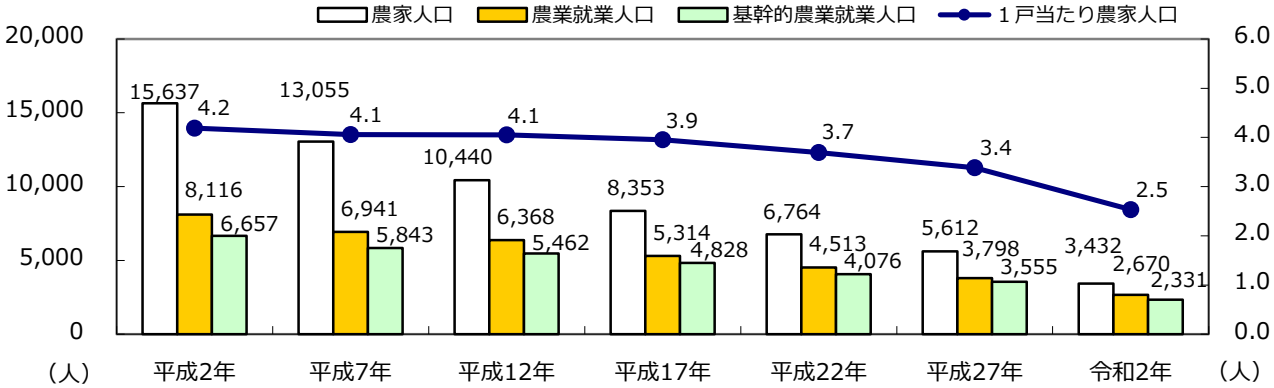
〔資料：農林業経営体調査結果報告（2020年農林業センサス）〕

平成27年までは販売農家数、令和2年は農業経営体数

（３）農家人口

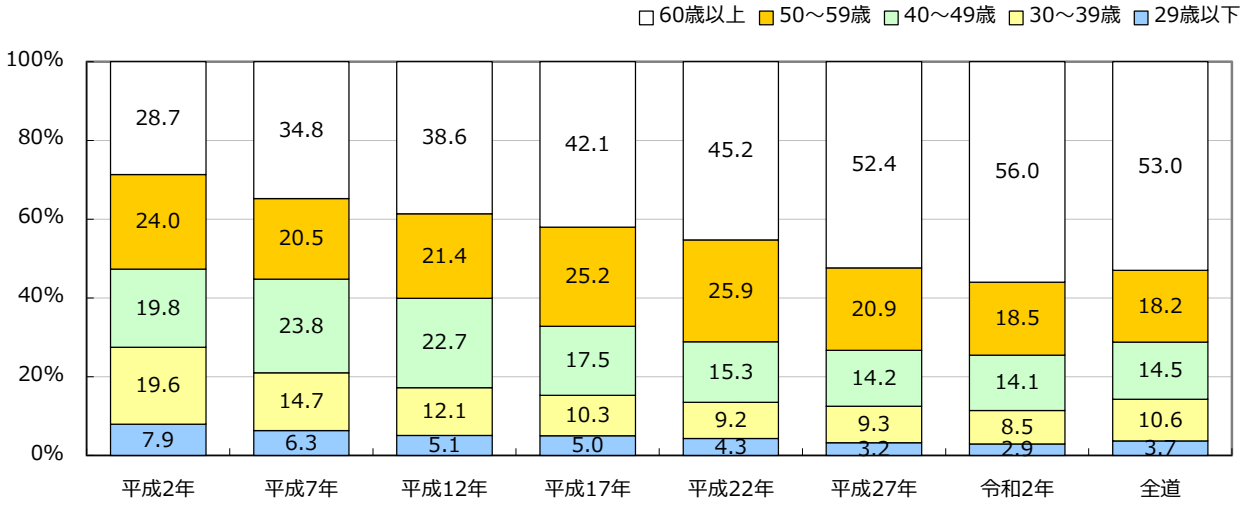
農家戸数の減少に伴い農家人口も減少しており、令和２年では3,432人で販売農家１戸当たりの平均農家人口は、2.5人となっている。
基幹的農業従事者数(個人経営体)の年齢別の構成比は、令和2年では15～29歳までが2.9%、30～39歳が8.5%、40～49歳が14.1%、50～59歳が18.5%、60歳以上が56%となっており、60歳以上が半数を占めている。

＜農家人口の推移＞



〔資料：農林業経営体調査結果報告（2020年農林業センサス）〕

＜年齢別基幹的農業従事者数(個人経営体)の推移＞



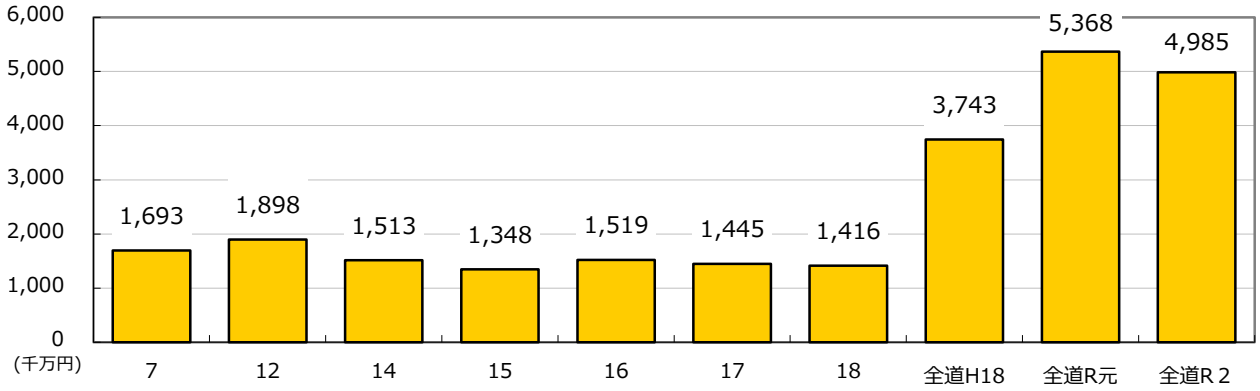
※年齢別基幹的農業従事者数　（単位：人）

	15～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
平成2年	523	1,307	1,320	1,598	1,909	6,657
平成7年	369	856	1,390	1,196	2,032	5,843
平成12年	279	663	1,239	1,171	2,110	5,462
平成17年	239	495	843	1,217	2,034	4,828
平成22年	177	376	624	1,057	1,842	4,076
平成27年	114	331	505	742	1,863	3,555
令和2年	68	197	329	431	1,306	2,331
全道	2,594	7,503	10,242	12,889	37,415	70,643

〔資料：農林業経営体調査結果報告（2020年農林業センサス）〕

（４）生産農業所得

＜生産農業所得の推移＞

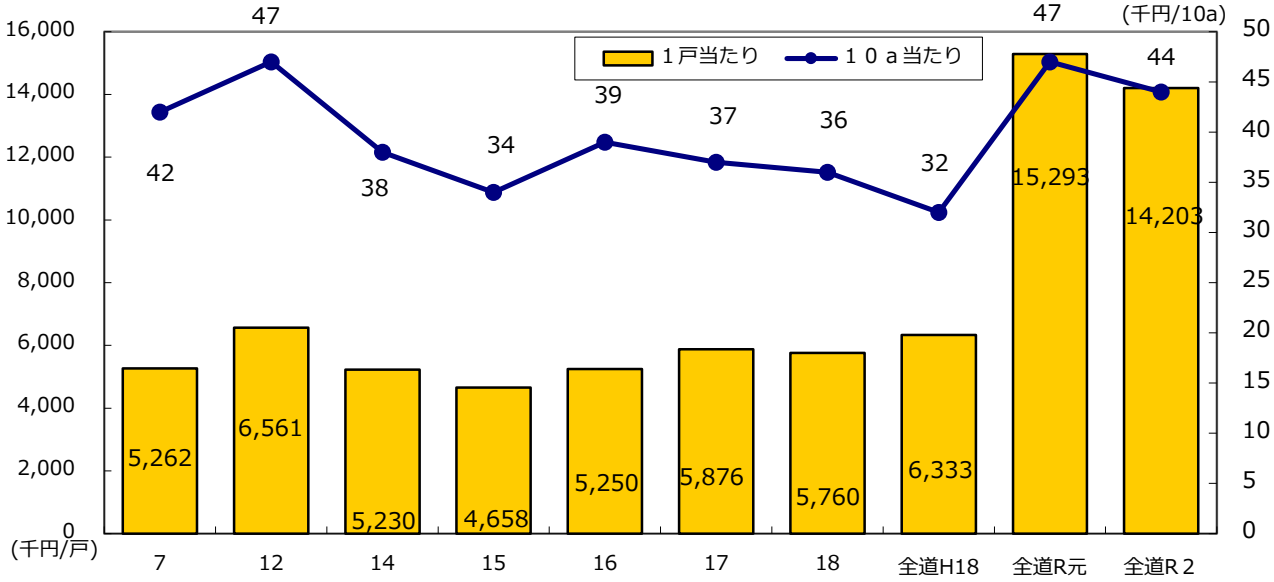


〔資料：北海道農林水産統計年報（総合編）〕

注：全道の単位は「億円」

平成19年以降の日高の生産農業所得の調査数値なし

＜生産農業所得（１戸当たり、10ａ当たり）の推移＞



〔資料：北海道農林水産統計年報（総合編）〕

平成19年以降の日高の生産農業所得の調査数値なし

～　衛生管理を徹底した養豚場　～

○　平取町にある「くれないファーム」では、景観に配慮した豚舎で約１万頭の豚を飼養しており、毎日約１００頭が出荷されています。
　この他にも、馬鈴薯やブロッコリー、キャベツやかぼちゃ、しいたけの生産も行っています。

＜けーあいファーム（くれないファーム）ホームページ＞
https://keiai-farm.co.jp/farm/biratori/

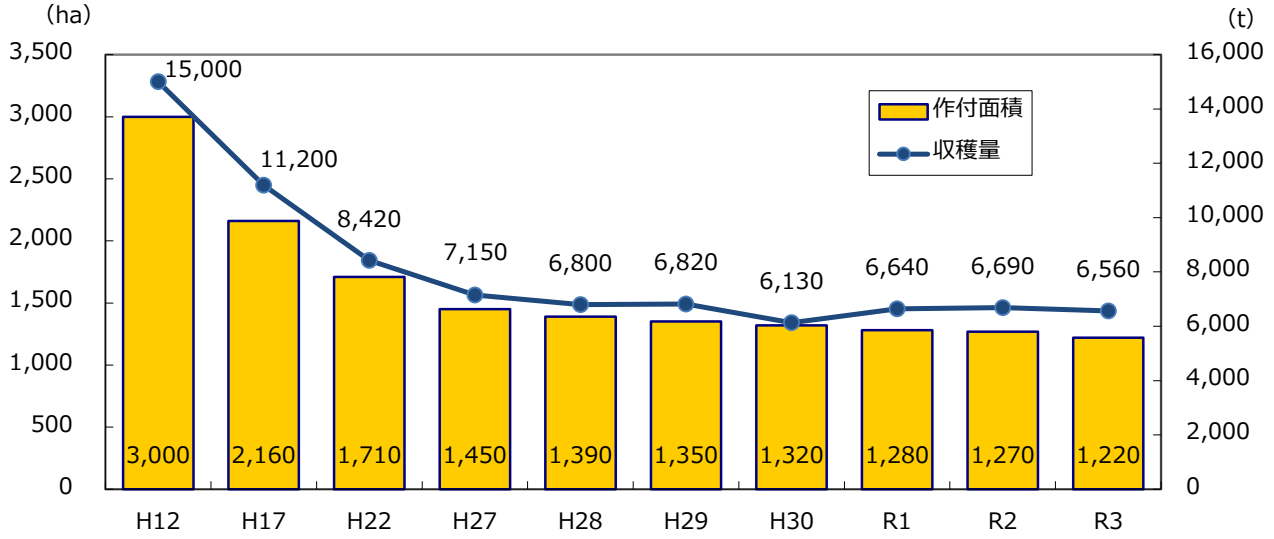
３．農業生産

（１）農産

①　米

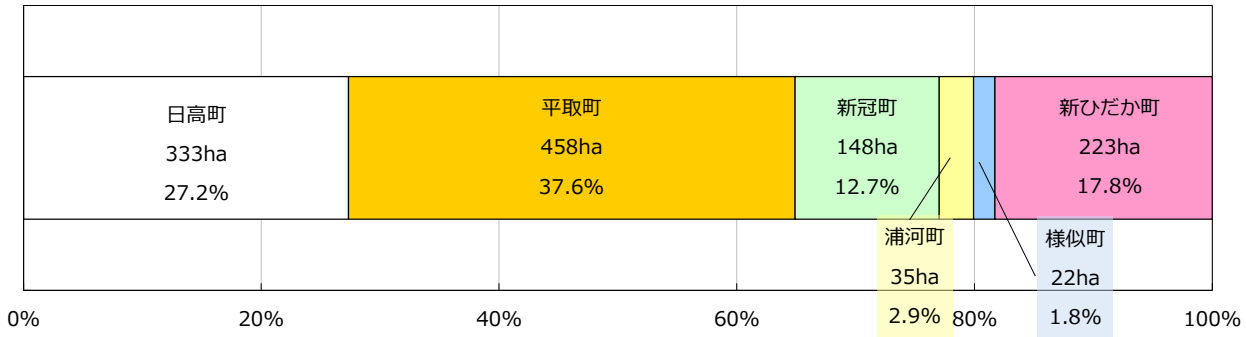
令和３年産の水稲作付面積は1,220haで、前年に比べ約50ha減少し、昭和60年5,180haをピークに年々減少し続けている。
収穫量も同様に減少傾向にあるが、令和３年産は6,560t（作況指数109）で、前年（作況指数108）に比べ130t減少した。

＜水稲作付面積及び収穫量の推移＞



〔資料：北海道農林水産統計年報（総合編）〕

＜町別水稲作付面積（令和3年産）＞

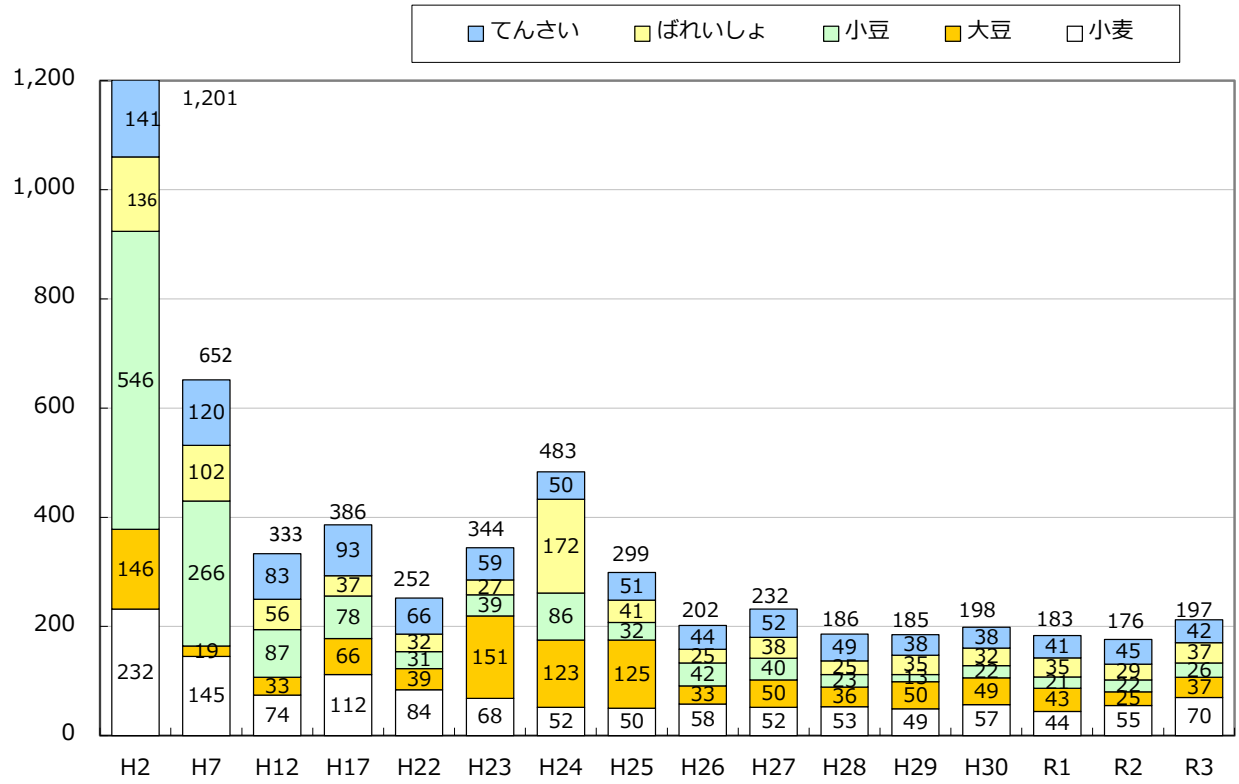


〔資料：北海道農林水産統計年報（総合編）〕

②　畑作物

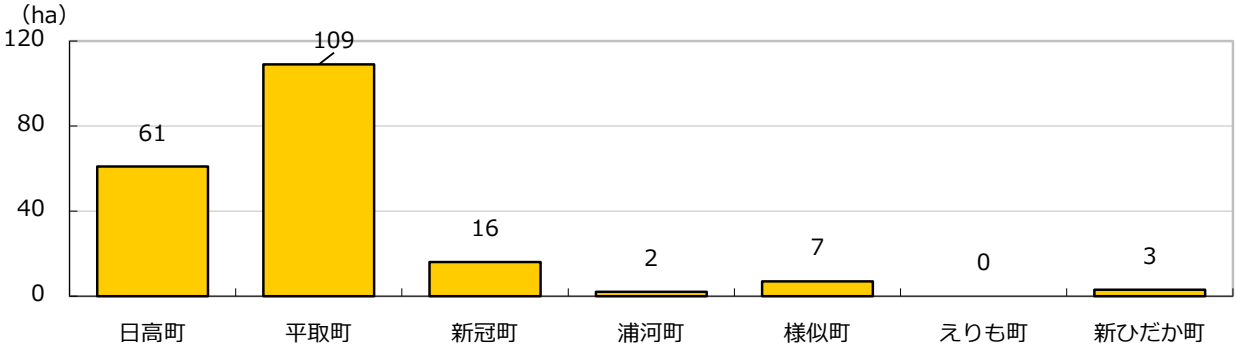
管内の畑作物の作付面積は平成２年のピーク時の約６分の１に減少している。
令和３年度作付面積を作物別に見ると、小麦が70ha、大豆が37ha、小豆が26ha、ばれいしょが37ha、てんさいが42ha、となっている。また、町別作付面積では平取町が最も多く、次いで日高町となっており、主に管内西部地域で栽培されている。

＜畑作物作付面積の推移＞



〔資料：平成18年値までは北海道農林水産統計年報（農業統計市町村別編）、平成19年値から、ばれいしょについては農務課調べ〕

＜町別畑作物作付面積（令和３年）＞

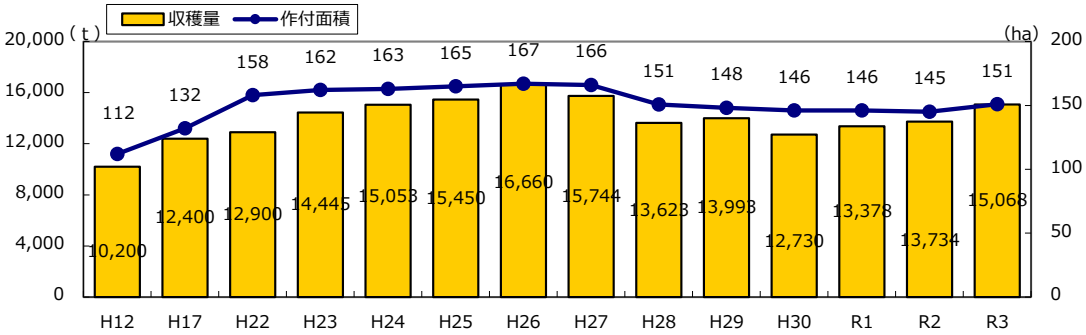


〔資料：北海道農林水産統計年報（農業統計市町村別編）及び農務課調べ〕

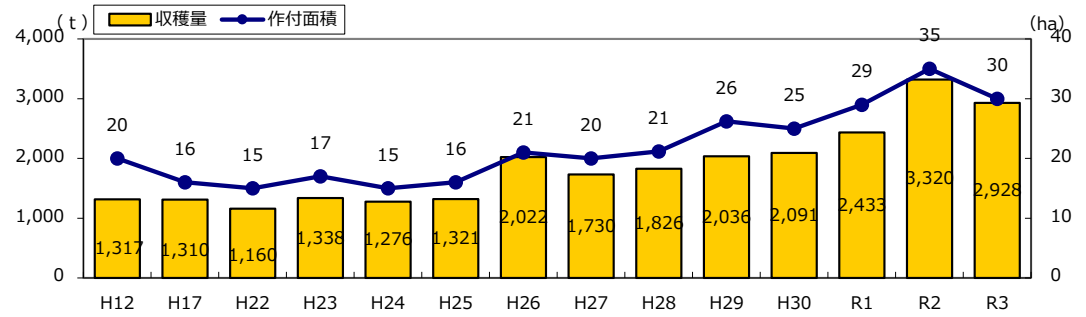
③　野菜

管内の野菜生産は、平取町のトマト、新ひだか町のミニトマト、新冠町のピーマン、日高町門別の軟白ねぎ、浦河町・様似町のいちごなど各町ごとに主力野菜の振興を図っている。
トマトといちごについては、作付面積及び収穫量は、おおむね横ばいで推移している。

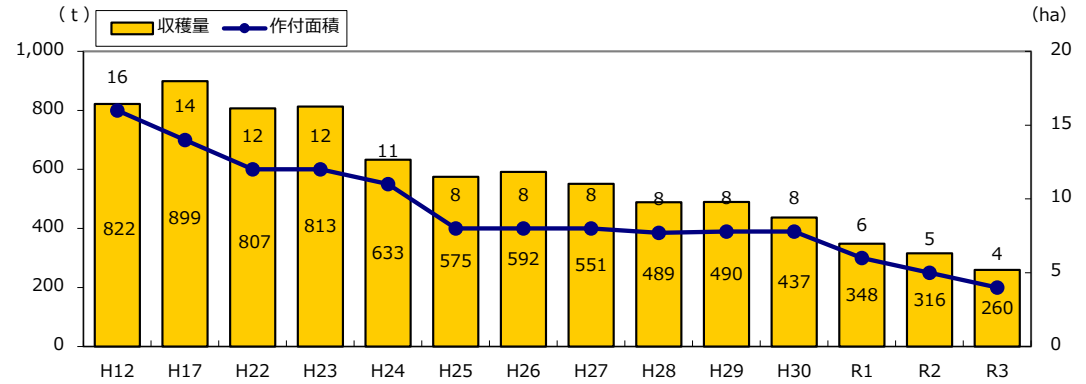
＜トマト（ミニトマト含む）の作付動向（日高振興局）＞



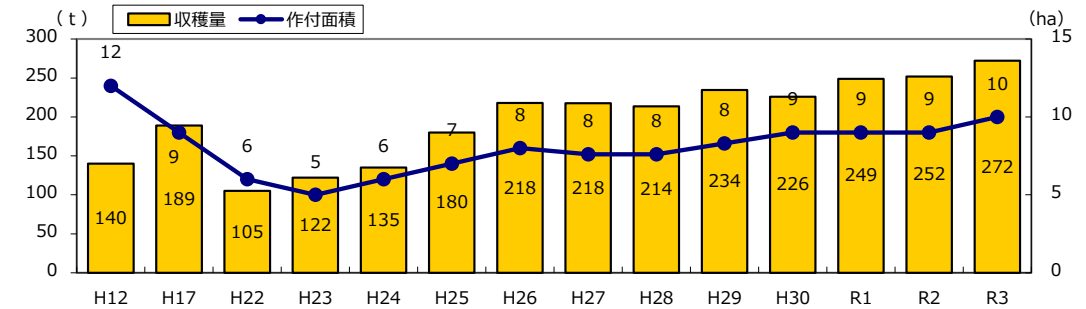
＜ピーマンの作付動向（日高振興局）＞



＜ねぎの作付動向（日高振興局）＞



＜いちごの作付動向（日高振興局）＞



〔資料：北海道農林水産統計年報（総合編）及び農務課調べ〕